

宮城県沿岸地域における

水の神々調査報告書



はじめに

みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）の水部会は、私たちの日々の生活に欠かすことのできない「水」に関する様々なテーマの調査研究及び成果発表の活動に取り組んでいます。

今回報告書にまとめたのは、「水の神さま」に関する調査結果です。「水の神さま」の詳細については本文に掲載しましたが、水部会は、各地で敬われてきた「水の神さま」が開発や世代交代によって消え去り、地域の歴史や人々の水への畏敬の想いが後世に伝わらないのではないかという問題意識から、2008年よりこの活動に取り組んできました。2011年3月に発生した東日本大震災は、私たちの活動に新たな視点をもたらしました。宮城県沿岸部の多くの「水の神さま」が物理的に破壊されその復興の困難さを痛感するとともに、地域コミュニティの中核的存在である「水の神さま」が祀られている神社やそれに伴う祭りの復活が地域復興の象徴となることに気付かされました。

報告書で取りあげたのは、石巻市所在の「日高見神社」など5つの神社ですが、この冊子を読んで「水の神さま」に興味を持った方は、是非MELONのホームページに掲載されている他の「水の神さま」についてもご覧いただきたいと思います。

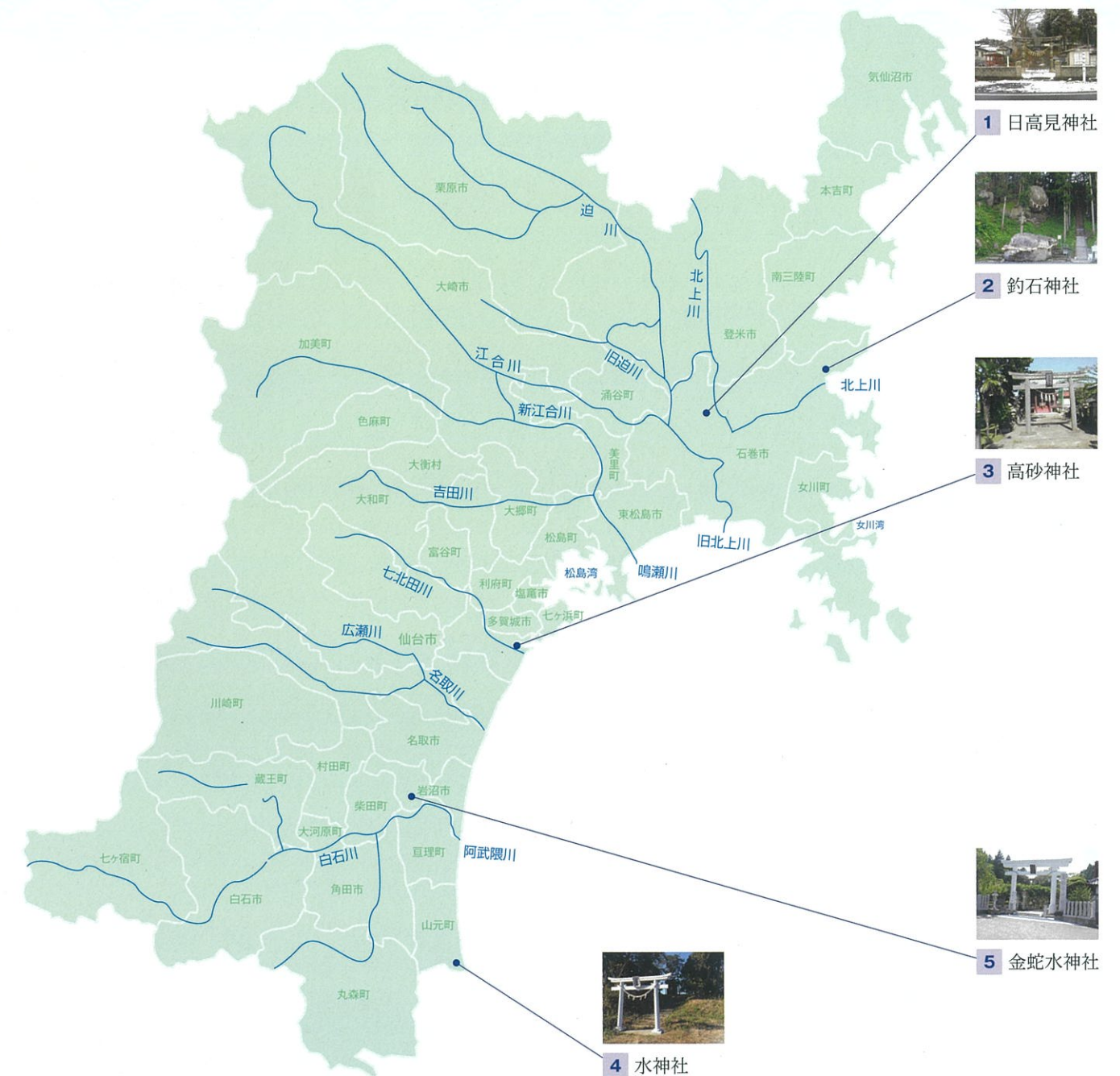
水の神さまとは

現代では、水道の蛇口をひねればすぐに豊富な水が得られ、生活の中に水があることは当たり前です。しかし、昔の人は水の大切さや恐ろしさを実感し、地域で「水の神さま」を祀り敬ってきました。

「水の神さま」には、「水神」「雷神」「龍神」「湯神」「井戸神」「お不動さん」「弁天さん」等が含まれ、ここでは神道系、仏教系、在来信仰を問わず水に関して祀られてきたものは「水の神さま」として扱っています。

水と私たちの暮らしとの関わりは様々で、その場面場面で水の神さまが存在します。飲み水として清潔な水を願って井戸の神様、湧き水が豊富で枯れないように蛇王権現、清潔な水で眼病治療あるいは眼病予防、伝染病予防の不動明王、豊作に欠かせない豊富な水の分配に水分神、降雨・止め雨の龍神、航海・漁の安全祈願に八大龍王など。とりわけ日本は稲作地帯なので、灌漑用水に関する神さまが多く、川をせき止めて取水する堰には必ずといってよいほど水神碑は建立されています。また、昔は洪水が頻繁に発生していたので、洪水の防除を祈願したものもありました。

「水の神さま」は、小さなものは石碑から、小さな祠、大きな鳥居、広大な敷地と神殿を備えた神社など、さまざまな形で存在しています。



水の神さま一覧

	水の神さま	地域	調査日
1	日高見神社	石巻市桃生町太田	2016年5月22日、2017年1月21日
2	釣石神社	石巻市北上町十三浜字追波	2016年5月22日、2017年1月21日
3	高砂神社	仙台市宮城野区蒲生	2016年9月25日
4	水神社	山元町坂元字磯沼下	2016年11月26日
5	金蛇水神社	岩沼市三色吉字水神7	2017年5月14日

ひ た か み じ ん じ ゃ 日高見神社



日高見神社

- 所在地：石巻市桃生町太田字拾貫1-73
- 近くの川：北上川
- 御祭神：天日別命・天照大神・日本武尊・武内宿弥
- 効験：五穀豊穡、家内安全、交通安全

縁起・由緒・伝承

この地方に伊勢津彦命が居住しており、高皇産霊神の子孫、天日別命に滅ぼされる。命はそれを皇孫に奉ったとあり、神武天皇の御代に天日別命を祀って日高見宮としたと伝えられる。景行40年、日本武尊が上総から海路陸奥に入り竹水門（たけのみなど：塩釜港付近）から日高見国にいたり賊を平定した。このとき、尊が武運を祈願して、皇祖天照大神を祀って日高見神社が建立された。「続日本記」に宝亀11年（780）「百済王俊哲等が賊に囲まれ桃生・白河等の郡神十一の社に祈る」がこの社名の初見。桓武天皇の延暦21年（802）正五位上勲五等に叙し、続いて三代実録の貞観元年（859）の「陸奥国日高見水神に従四位下に授く」とあるので往古は北上川の河神を祀った社ともいわれている。（日高見神社概説）

周囲の様子と見どころ

日高見神社は北上川の川の名前の起源になったのではないかとされる神社で、延喜式内社桃生郡六座の一つとして社格を誇り、古くから遠近の信仰を集めてきた。北上川は江戸時代初頭栗原郡内、大崎郡内の米穀を仙台や江戸に回米するためと下流の石巻の洪水制御のために改修を行った。一部を追波川に繋ぎ追波湾に流して太平洋へ、旧来の流路は栗原よりの迫川と大崎平野の江合川を結んで石巻に流して、水運に使った。神社はちょうど北上川が分流する二股の小高い岡のところに位置している。

地名の拾貫とは米の重さではなく、金拾貫目に由来するとのこと。往古この地は産金の地でもあった。

また、日高見神社には「はね娘おどり」という4年に1回の神輿渡御時（4月19日）の先触れとなる若い娘たちによる踊りが伝承されている。宝永年間（1704～1711）の大旱魃の時に日高見神社別当・本山派法印・鴻巣山良国院という法印様が導師となり近郷近在の法印様たちと雨乞いをし、7日の勤行の終わりに待ちに待った雨が降り出し、老若男女を問わず雨の中を嬉しさのあまり狂ったように跳びはね踊りながら各村々へ帰って行った。この様子を踊りにして神輿渡御の先触れとして残したと伝えられている。旧桃生町内の小学校では授業で取り上げ小学生に伝承する活動を地域の方々の協力で行っている。仙台市内で踊られている「すずめ踊り」の復元時に氏子さんたちが応援に駆け付けたとのこと。（神社訪問時談話）

参考資料

・インタビュー 日高見神社宮司 大和昭彦氏



はね娘おどり



市民向け見学会の開催（2017年1月21日）

つ り い し じ ん じ ゃ 釣石神社



「落ちない」巨岩で受験の神さまとしても有名な釣石神社

- 所在地：石巻市北上町十三浜字菖蒲田305
- 近くの川：北上川
- 御祭神：天児屋根命 あめのこやねのみこと
- 効験：縁結び・夫婦円満。子孫繁栄、大漁祈願、萬年長寿、学業成就

縁起・由緒・伝承

本追波地区は元来「館ヶ崎」と称されていた。その奥地の国有林鷹ノ巣山の内、産土沢と称する山上に祀られ崇拝されていたが、時代の流れ行くまま便宜良ろしく、山間より北上川筋に移転したるをもって、古人が元和4年（江戸時代初期）に現在地に遷宮したものと伝えられる。その当時、館ヶ崎は北上川河口のため、藩祖伊達政宗公が当地方を巡視された際、社側の丘に登って四方を眺望し、波の追いかたををご覧になって「追波」と改称したという。

境内地には大石四つあり、その一は長さ二丈五尺ばかり、横一丈二、三尺ばかり、その二は円く周囲四丈六、七尺ばかり、その三は少し丸く長さ七尺ばかり、その四は長さ五尺ばかり、横三尺ばかり、厚さ二尺五寸ばかり東西を囲みて地に入るはいささか少ない。あたかもこれを釣り揚げるが如し、上に大石ありてこれを蓋し、その形、窟の如し。故に土人はこれを号して釣石大明神という。（邦内風土記）

周囲の様子と見どころ

御神体の巨石が幾多の災害にも耐え、宮城県沖地震でも耐え、落ちそうで落ちないことから受験競争激化を受けて受験生の神さまとして近年知られるようになった。また、北上川河口に位置し、「釣」の一字から大漁を祈願するようになり、釣り下がった男岩と下に横たわる丸い岩を女岩を模した陰陽信仰から夫婦円満、縁結び、中間の石の頭が亀の頭に似ているところから波にのってくる亀にあやかって不老長寿などを祈願する。

東日本大震災では本殿に上る階段、標高10m付近まで津波に襲われ、神社を支えていた周囲の集落が流され、残ったのはわずかに3軒であった。氏子が高台移転で移ったなかで、地域の人々がこの地に400年間生きた証として、またこの地のコミュニティの再興の中核になるべく社務所と祈祷殿を再建した。

参考資料

・インタビュー 釣石神社 宮司 岸浪 均 氏



北上川河口部の葦を使った輪



再建された社務所と祈祷殿

た か さ ご じ ん じ ゃ 高砂神社



東日本大震災前の2008年に撮影した鳥居

- 所在地：仙台市宮城野区蒲生字町
- 近くの川、水辺：七北田川、蒲生干潟、仙台湾
- 御祭神：伊邪那岐神、伊邪那美神、底綿津美神、中綿津美神、表綿津美神
- 効験：夫婦円満、子孫繁栄、長寿長命、海上安全

縁起・由緒・伝承

万治2年（西紀1639年）舟入堀の工事の安全を祈願して和田織部、佐々木伊兵衛等が建立し、伊達家3代綱宗公がそれを認めて創建された。創建当時の境内地附近は桐生尾上の松の霊木を初めとして一目千本の松の美林に囲まれていたが、此と具に日本歴史を緋くとき、平安時代から鎌倉時代にかけて全国的に樹木崇拝の思想が起り長く江戸時代に及んだが、松は百木の長たりとした歴史的樹木観からこの地は日本屈指の松どころつまり松の名所として知られている播州（兵庫県）高砂浦等と相並び名付けて日本三所の一つと美称され今日に至っている（境内の由緒書き）。元は仙台港北部の中野字高松にあったものだが仙台港建設のおり現在地に移転した。

周囲の様子と見どころ

七北田川河口に発達した蒲生干潟に隣接して立地している。蒲生は江戸時代から太平洋戦争後まで貞山運河で結んだ仙台藩の物資の集散地であった。内陸舟運がすたれるとともにその面影がすっかり消えていたが、神社の西側は町並みで、郵便局もあり、神社の近くが市営バスの終点であった。

神社の東側には養鰐場があり水神碑が祀られていた。その隣が国指定仙台海浜鳥獣保護区蒲生特別区に指定されている蒲生干潟で、養鰐場との間に日本で2番目に低い山「日和山」という配置になっていた。東日本大震災の津波は景観を一変させ災害危険区域となって住民は移転し、町並みは無くなってしまった。養鰐場は廃業、「日和山」は津波により山の上半分が削り取られて1996年以来再び日本一低い標高3mの山となっている。維持する周囲の人々が移転してしまった中で、この地に400年来人々が住んでいたという歴史と自然環境を活かした復興が進むかどうか、注目される神社でもある。



震災後、再建された鳥居（2016年9月）



震災後、再び日本一低い山となった「日和山」
山頂からは蒲生干潟が一望できる

す い じ ん じ ゃ 水神社



水神社

- 所在地：山元町坂元字磯沼下
- 近くの川、海：赤川、磯浜漁港
- 御祭神：水神
- 効験：海上安全・大漁祈願、農耕神、豊作祈願【詳細不明】

縁起・由緒・伝承

本社は坂元神社である。詳細は不明であるが、かつてこの一帯に棲みついていた大蛇の供養を目的に建立されたといわれており、境内に「大蛇大善神」の石碑がある。

大蛇の埋葬場所は「磯崎山公園」にある。水神社から東側100m付近には、「水神社」の信仰者の一人が健康祈願のために建立した「水神宮」がある。

周囲の様子と見どころ

水神社北側には古くから農業用ため池として利用されてきた「水神沼」がある。海跡湖であり、水を汲んでも減ることが無く、干ばつ時にも水の枯れないため池であった。また、現在のJ R常磐線は「水神社」の内陸側に高架橋となって移設されているが、この一帯はかつて水神沼が大きく広がり、奥州一の日陰沼といわれていたほどの沼地であった。高架橋をみるにつけ、このような軟弱地盤でもコンクリート構造物を構築できる現在の土木技術力の高さに驚かされる。

震災前は水辺の環境整備がなされ、公衆トイレも設けられて周辺は公園化されていたが、現在は未整備である。

しかし、現在も冬になると阿武隈山系を背後にハクチョウやカモが多く飛来してくる景観は素晴らしく、一見の価値がある。将来、再び周辺の環境整備がなされていくことが期待される。

東日本大震災による津波は赤川を遡上し、水神社のある高台から更に2m程度の高さに達した。お堂は流失したが、拝殿は周囲の樹木の効果もあって流失を免れ、その後「磯浜自治会」の手により修復された。

磯崎山公園近くにある大和氏のご自宅では、2階の床上20cmまで津波が来た。周辺集落戸数も震災前は140戸程度であったが、現在は12～13戸となってしまった。

震災後、被災した水神社を氏子でなく、地元自治会自らの手により修復したことは、地域の人々がいかに水を大切にし、「水神社」をお祀りし続けてきたかを物語っている。

また、この地域はかつて貞観地震津波（869）、明治三陸地震津波（1896）、昭和三陸地震津波（1933）など、津波の常襲地域でもあり、それぞれの時代の語り部によって津波の恐ろしさを後世に伝え、記録に残す努力を怠らなかった。明治三陸地震津波の記録はみつからないようであるが、この様な先人の努力は現在のこの地域の人々の海と水とのかわり方にしっかりと受け継がれている。

参考資料
・インタビュー 地元町民 大和武房氏



とぐろを巻いた蛇の刻まれた石碑



水神社高台より水神沼、常磐線高架橋を望む

かなへびすいじんじゃ 金蛇水神社



金蛇水神社鳥居

- 所在地：岩沼市三色吉字水神7
- 近くの川、海：金原堤、五間堀川、貞山堀
- 御祭神：水速女命を主祭神とし、大己貴命（大国主命）・少彦名命。境内社として金蛇弁財天
- 効験：商売繁盛、金運円満、海上安全、大漁祈願

縁起・由緒・伝承

金蛇水神社の創祀はその水源の神としての性格からみると、この地方に人々が初めて足跡を残した悠久の太古にさかのぼるものと考えられる。御社名をめぐっては、次のような縁起が伝えられている。一条天皇の御代、永祚元年というから平安時代も半ばの頃のことであるが、京都の三条に住む刀匠小鍛冶宗近が天皇の御佩刀を鍛えよとの勅命を賜り、名水を求めて諸国を遍歴していた。たまたまこの三色吉の地を訪れたところ、水神宮のほとりを流れる水の清らかさに心をうたれ、早速水神宮に参籠祈願して神恩を請い、遂に宝刀を鍛えることができた。そこで宗近は神の御加護に感謝し、雌雄一対の金蛇を斎鍛して水神宮に奉納し、都に上ったという。以来この金蛇を御神体と崇め、御社名も金蛇水神社と称して今日に至っている。（金蛇水神社参拝のしおり）

周囲の様子と見どころ

拝殿前の境内の左際には石に刻んだ蛇がズラリならんでいる。蛇と金運にまつわる言い伝えにあやかっただけのもの。拝殿の両脇には信者が寄進した石造りの金蛇がお酒とともにたくさん飾られている。

境内社として「金蛇弁財天」がある。弁天様は元来川の女神であり、水神様とは大変ゆかりの深い神であり、「えびす様」や「大黒様」とともに福德円満の神として日本人に広く知られており、芸能の神としても信仰されている。（金蛇水神社参拝のしおり）

背後西側は柴田町槻木との間に五社山の山塊を抱え、境内を流れる小川は上流の金原堤（七つの農業用堤）より流れてくる。近くの志賀川とともに東に広がる岩沼平野を潤し、五間堀川に注ぐ。五間堀川は海岸付近では貞山堀となっており、阿武隈川河口と繋がっている。

金蛇水神社は山際にあるため、津波の影響はなかったが、所在する岩沼市の海岸沿いは津波により壊滅的な打撃を受けた。岩沼市全体として自然環境に配慮した復興に力を入れている。



信者より寄進された種々の金蛇



境内を流れる金原堤よりの清流

その他 調査・訪問した神社 (2016 年以降)



■ 所在地 仙台市若林区藤塚屋敷51



■ 所在地 山元町高瀬字笠野128



■ 所在地 巨理町荒浜字水倉



■ 所在地 仙台市若林区霞目2-15-37



■ 所在地 仙台市若林区荒浜中丁36-33



■ 所在地 巨理町荒浜字明神西190-1



■ 所在地 岩沼市寺崎字瀬崎

「水の神さま」プロジェクト これまでの活動

昔の人々は、水を大切に作る心から水辺の近くに「水の神さま」を祀ってきました。「水の神さま」にふれることで、宮城県の水辺を知り、水を大切に作るきっかけ作りをしようと、2008年5月からスタートしたプロジェクトです。

MELON水部会メンバーと水に興味のある一般市民が一緒に、プロジェクト会議や調査活動を行ないました。調査や取材活動では、プロジェクトメンバー以外のたくさんの方にご協力いただき、また「水の神さま」情報もお寄せいただきました。

<主な活動>

調査活動

水にまつわる史跡「水の神さま」を訪ね、その「水の神さま」にまつわる言い伝えや地域の歴史を地域の方々から聞き取るなどの調査を行ないました。

仙台市内の調査からスタートし、27か所の水の神さまをまとめたマップを作成しました。その後、徐々に市外にも調査範囲を広げ、調査した水の神さまは100ヶ所を超えています。



発信活動

調査した結果をパンフレットやDVDにまとめ、イベント等で配布しています。また、専用ウェブサイトを作成しMELONウェブサイトで公開しています。

震災後は、津波の被害をうけた沿岸部の「水の神さま」を訪ね、調査した結果をまとめた冊子「沿岸地域の『水の神さま』が繋ぐ水と人の歴史文化伝承プロジェクト報告書」を作成しました。

「水の神さまを探せ！」ウェブサイトURL:

<http://www.melon.or.jp/melon/contents/Section/Water/wg/index.html>



普及活動

これまでの調査を通して、地域で水文化の継承に取り組んでいる方々に集まっていただき、情報交換を行う交流会「引き継ぐ『水への想い』～地域文化の継承を考える交流会～」を開催しました（2015年12月12日）。

また、実際に「水の神さま」を訪ねる見学会「宮城野の水の伝承を探るバスツアー」（2016年9月25日）や、「北上川の『水の神さま』の伝承と文化に触れるバスツアー」（2017年1月21日）を開催しました。



2016年9月25日



2017年1月21日

MELON 水部会

環境団体MELONの水をテーマに活動するグループ「水部会」。

蛇口をひねれば簡単にきれいな水が手に入る現在、水のありがたみを実感することは少なくなっています。命の源となる水を保全するために、河川の水質調査、水と暮らしの歴史調査、水に関心を持ち親しむ講座の開催など、水に関して様々な視点から活動を行なっています。

「水の神さま」プロジェクト

石碑や神社などで祀られている水に関する神さまの調査・取材や、見学会・交流会などを行っています。地域の方にお話を聞くことで、人と水との関わりの歴史、地域の水害の歴史などを知ることができます。

詳細については前の頁に記載しています。



広瀬川の水質調査

毎年6月の環境月間に、全国水環境マップ実行委員会が行っている「身近な水環境の一斉調査」に参加し、広瀬川の源流から下流までの5か所程度で水質調査を行なっています。CODやアンモニウム態窒素や伝導率、透視度の他、五感を使った観察などによって水辺環境の状態・変化について調査しています。



水に関するイベント出展

水と暮らしへの関心を広めるため、他団体主催のイベントなどにおいて、水と生活の関わりを体感できるブースを出展しています。

「水の飲み比べ」や「水の泡立ち実験」など、楽しみながら水について学び見直すきっかけを提供しています。



例会の開催

1、2ヶ月に1回程度、メンバーが集まって話し合いを行っています。活動や調査の報告と方針の確認、スケジュールの調整、役割分担など自由に意見を出し合っています。



公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク (MELON)
Miyagi Environmental Life Out-reach Network



1992年にブラジル・リオデジャネイロで開催された地球サミットをきっかけに、緑と水と食をとおして環境とくらしを考え、地球と地球環境保全に寄与するために、地域から活動をおこそうと多くの市民、研究者、協同組合、企業、団体でつくられた環境NGOです。

毎日の暮らしの中から、地域から、地球で暮らす私たちにも取り組めることを広げようと、一人ひとりの参加と協力をつなぎながら、環境保全活動を進めています。また、誰もが気軽に参加でき、学習できるような継続的な活動を目指しています。

宮城県沿岸地域における
水の神さま調査報告書

発行 2017年6月

- 製 作：公益財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)水部会
〒981-0933 仙台市青葉区柏木1-2-45フォレスト仙台5F
TEL 022-276-5118 FAX 022-219-5713
Email melon@miyagi.jpn.org
- 印 刷：株式会社東北プリント

この冊子は2016年度まちづくり地球市民財団助成金を受けて作成いたしました。

